

<特徴のあるホテル12>

青い湯の宿

1 大分県 別府鉄輪温泉 神和苑

自家源泉からたっぷり掛け流すお湯は、透明から青色、乳白色へと少しずつ色が変化する神秘の温泉。新湯の入れ替えで、湯船に満たしたときは透明。源泉をかけ流していくとともに青く色づき、3日目には透明で鮮やかなコバルトブルーに。やがて、少しずつ白濁し7日目には乳白色となる。原因は下記。源泉に含まれるメタケイ酸が時間の経過とともに、シリカコロイドという粒子になり、青い光だけを散乱させる。そのレイリー散乱に適した大きさになるにつれ青さを増して、一定の大きさを超えるとすべての光を散乱させるようになり白くなるというメカニズム。



3 大分県 由布院温泉 奥湯の郷温泉

神秘的な青い湯をたたえる一軒宿の温泉。、ブルーハワイのような色の湯になる原因はガラスの成分であるメタ珪酸を大量に含んでいるため。湧出後、最初は薄い青色透明になり、やがて紫色透明になり、最後は青白く濁る。にごり湯のなかでも、最も美しく、感動的。夜になると灯りに反射して青白く、底光りするような色に光る。



5 宮城県 鳴子温泉 旅館すがわら

すべすべの入浴感、そして入浴後はしっとりとしたお肌になる「美肌の湯」としても好評。これはナトリウムイオン : 773.0(mg/kg)やメタケイ酸 : 498.6(mg/kg)という天然の美肌成分が多く含まれているため。鳴子温泉の中でメタケイ酸が498.6mgと最も高い数値の「摩天の湯」源泉はシリカコロイドの散乱現象により時々青色に変化する。この青色に変化する天然温泉、自然現象にちなみ「蒼天の湯(そうてんのゆ)」と名付けられた。メタケイ酸による天然の美肌効果が高く、身体の芯まで温まる温泉と檜で造られた足湯でリラックス効果も高まる。



2 大分県 由布院温泉 庄屋の館

お湯には“メタケイ酸”が多く含まれているので、お湯の色が綺麗なコバルトブルー色。さらに一切加水・加温をしていない、100%源泉かけ流し！ お風呂上がりのお肌はもっちりすべすべになる。宿泊者はもちろん、立ち寄り湯を利用する姿が多く見られ、圧倒的な人気を誇っている。メタケイ酸の含有量が通常の10倍以上もあるため、無色透明からコバルトブルーへと変化する。また、地下700mより自噴した湯は100%掛け流しで、とろりとした湯で美肌湯としても有名である。



4 熊本県 丘の湯温泉 豊礼の宿

標高1500mのわいた山麓にひととき美しいコバルトブルーの湯がある。源泉温度は高いが、加水は一切せず、いったんタンクにためて温度を下げていく。注がれた湯は透明な青、薄く白濁した青、自然条件や源泉の使用状態によりさまざまに表情を変えていく。目の前には湧蓋山の秀麗な姿が横たわる。泉質はナトリウム・塩化物温泉。



